チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注１）	No.	タイトル	自治体名
	19-11-3	長期に亘るコロナ禍において横浜市民一人ひとりのウェルビーイングを実現する	神奈川県横浜市
チームがつけたアイデア名（注 2）（公開）	街のバリアフリー施設をデータ標準化！多目的トイレや混雑状況のことで困りたくないから		

（注１）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。
（注 2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1．応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	横浜ユニバーサルツーリズムデスク	
チーム属性（公開）	１．市民、２．市民／学生混成、３．学生	**2**
メンバー数（公開）	５名	
代表者（公開）	太田啓介	
メンバー（公開）	太田雄介　鴨下琳斗　中山圭太郎　小野湊斗	

【注意書き】※　必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示―非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。
必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたくなる**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**２ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

私は車いす利用者です。余暇や買い物で横浜の街並みを歩くとき、多目的トイレが長く他の人によって使用されていて、困ることがあります。また、新しく訪れた街では、どこに多目的トイレがあるか、わからないことがあります。
街の施設データ（とくにバリアフリーの施設データ）がアプリケーション等で利活用され、把握できるように、データベースの標準化を行いました！

＜この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞ ＜アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。＞
＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

多目的トイレをはじめ、バリアフリーに関わる設備をアプリケーション（スマートフォンアプリまたは web サイト）で確認できるようにしました。

しかしながら、バリアフリーの設備（多目的トイレ、階段昇降機、音声案内版など）のデータが整備されていないこと。そして、その語彙が揃っていないことがわかりました。

そこで、**私たち**はバリアフリーに関わる整備のデータベースの標準化を行いました。

●バリアフリー施設の名称は、「多目的トイレ」・「多機能トイレ」・「だれでもトイレ」
同じ意味であるのに日本全国共通になっている言葉がないものが多く、
最適な標準的な言葉を 1 つに絞り込みました。（語彙の標準化）

●データベース設計を整理しました。（データ構造の標準化）

●駅・公共施設のデータベースに「（バリアフリー施設）を運用する」というデータ項目をつけて、「階段昇降機」・「障害者用エレベーター」・「音声読み上げ案内板」というようにデータ作成しました。（旅行分野で使えるようなデータ作成）

●Wikidata の仕組みを参考にして、整理しました。
調査したデータベース構造とデータを、Wikidata に登録しました。（広くデータ公開）

●アプリケーションで、SPARQL の API でバリアフリー施設データの取得ができるように
なりました。（データ利活用）

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

★**私たち**はこのデータ標準化の仕組みを、プレス発表するなど広報をしています。旅行事業者をはじめとして、地域活動・データ活動を行う人向けに認知啓蒙しています。

★**私たち**はバリアフリーを認知啓蒙するイベントを開催（コロナ禍でリアルイベントの開催は減少しましたが、一部をオンラインイベントに切り替えて開催）しています。エンジニア・デザイナー・地図技術者などにも街のバリアフリーとそのデータのことを認知啓蒙しています。

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

街のバリアフリーの施設データがアプリケーション等で利活用され、把握できるように、バリアフリー施設のデータベースの標準化を行いました！

★**私たち**はバリアフリーを認知啓蒙するイベントを開催（コロナ禍でリアルイベントの開催は減少しましたが、一部をオンラインイベントに切り替えて開催）します。

★**私たち**は策定したデータ標準化の仕組みを、プレス発表するなど広報をしています。自治体（横浜市）と協力して、旅行事業者をはじめ、地域活動・データ活動を行う人向けに認知啓蒙しています。

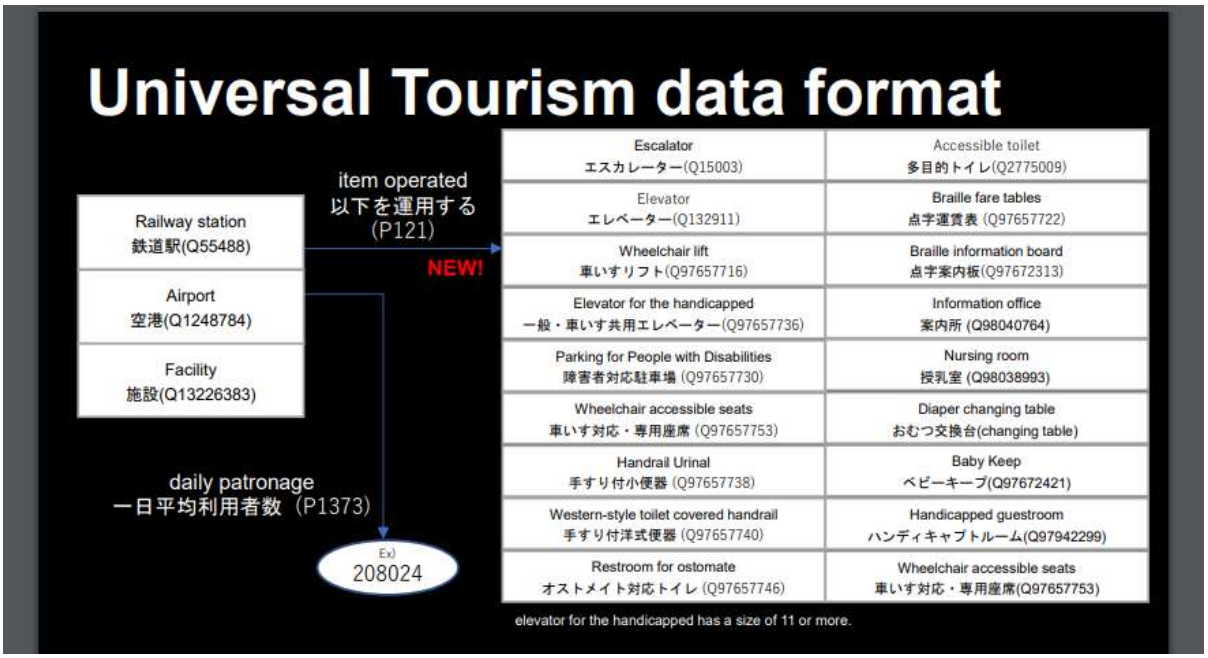
2．アイデアの説明（公開）　(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

＜このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます＞
＜先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます＞

実現するには、アプリ制作の前に、データ整備が必要になり、さらにその前に、語彙の整理やデータベース設計など基本的に事項が全くできていないことに気づき、横浜を発祥として　日本全体でもバリアフリーの問題解決を取り組めるようにしたことが工夫した点です。



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1．実現する主体

2．実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

3．実現にいたる時間軸を含むプロセス

実現するには、アプリ制作の前に、データ整備が必要になり、さらにその前に、語彙の整理やデータベース設計など基本的に事項が全くできていないことに気づき、横浜を発祥として　日本全体でもバリアフリーの問題解決を取り組めるようにしたことが工夫した点です。

1．ユニバーサルツーリズムで用いる設備の語彙の整理・データベース設計

2．ユニバーサルツーリズム設備の調査実施

3．横浜のバリアフリー設備データを Wikidata に登録
（横浜オリジナルのアプリケーションのためのデータ設計を行っていない。
Wikidata は公共データベースなので、ほかの自治体でもデータ標準化しているので
真似できる。）

4．Wikidata の API 機能を用いて、**バリアフリー設備の情報がデータ取得できるようになった！**